

## 2014 JUA/AUA Academic Exchange Program 参加報告

水野 健太郎 (名古屋市大)

このたび、2014年度の日米泌尿器科学会交流プログラムに参加させていただきましたのでご報告いたします。本プログラムの存在を知ったのは第99回日本泌尿器科学会総会(2011年)でシカゴ小児病院のYerkes先生が来日されたのがきっかけでした。Yerkes先生は私たちの教室に1カ月間滞在され、診療・研究・学生教育についての議論だけでなく、プライベートでも有意義な交流ができました。私も、いつか本プログラムに参加したい、と考えていましたが、今回その目標がかない大変光栄に存じます。

本プログラムでは1カ月間の滞在が可能で、University of Texas Southwestern (UTSW) を選択いたしました。UTSW 泌尿器科のChairは、前立腺癌やBPHの領域で高名なRoehrborn先生ですが、自分の診療・研究領域に近いPediatric urology部門のチーフであるLinda Baker先生のところへ希望を出したところ、快諾を頂きました。

Baker先生とは、京都で行われた29th World Congress of Endourology and SWL(2011年)の際に、当教室の林先生の計らいでお会いしており、以後のAUA/SPU meetingでも交流していた経緯があります。小児泌尿器科全般に精通されていますが、特にDisorder of Sex Development、尿道下裂、膀胱外反など複雑な先天性尿路性器異常の手術経験が豊富で、2014年のAUA 停留精巣診療ガイドラインにもたずさわっておられます。また、小児泌尿器科領域における腹腔鏡手術やロボット手術のパイオニアの1人でもあります。さらに、ご自身がレジデント後、基礎研究に2年間従事されていたこともあり、エクソーム解析やCGHアレイなどの技術を駆使して遺伝性疾患の病態解明に取り組まれております。

フロリダ州オーランドで開催されました2014 AUA/SPU meeting(2014.5.16~21)に参加した後、ただちにテキサス州ダラスへ移動しました。ダラスはケネディ大統領が暗殺された町、というくらいの印象しかなく、テキサスというと西部劇に出てくるイメージでしたが、全く違いました。ダラスはテキサス州の北部に位置し、ダウンタウンには高層ビルが建つ一方、郊外は緑が豊富で5~6月はそれほど暑くなく快適な気候でした。経済的にも発展しており、各企業が進出している都市でした。

到着した空港にはレジデントのThoreson先生が待っていてくれ、スーツケースを持ったまま病院へ向かい、手術室へ直行する、というスピーディーな展開でした。外国人を寛容に受け入れてくれるアメリカという国の大きさを感しました。大学病院の施設も非常に大きく、小児患者の診療を行うChildren's Medical Center(CMC)



ロボット手術のワンシーン



手術室でLinda Baker先生と

と成人の診療を行ういくつかの建物があります。ほぼ毎日が手術で、ここで私は女児外陰形成術、膀胱頸部形成術、口腔粘膜を利用した膣形成術など、多くの再建手術を見ることができました。また、水腎症に対する腹腔鏡手術やロボット手術も見学でき、大変貴重な経験になりました。生後6カ月の乳児に対しても行っており、体位やトロカールの位置・手術手技など非常に参考になりました。

滞在中、ちょうどサッカーのワールドカップが開催されていました。Baker先生のご主人のKenと息子さんのAndrewはともにサッカーが大好きで、地元チームのF.C. Dallasの試合にも連れて行ってくれました。ホームスタジアムの名前が、なんとTOYOTAスタジアムといい、地元の愛知県にも同名のスタジアムがあることを伝えたら、“What a coincidence!”と喜ばれました。ワールドカップ予選リーグでは、日本やアメリカ代表の試合を

一緒に応援するなど、サッカーを通じてコミュニケーションを深めることができました。

メキシコに近いため、タコスやトルティーヤなどのメキシコ料理もよく目にしましたが、テキサスの名物料理と言えば、なんと言ってもステーキです。Brisketと呼ばれる肩肉や、骨付きのribなど様々な種類の肉を食べることができました。Baker先生のところに来ているレジデントやフェローの生活もかいま見ることができました。カンファレンスやジャーナルクラブ、そして手術室でのQ&Aなど、彼らは常にトレーニングをされており、限られた期間の中でステップアップするために非常に努

力をしていました。日本とアメリカの教育システムの違いはありますが、見習わなければと実感しました。

最後になりましたが、本プログラム参加という素晴らしい機会を与えてくださいました日本泌尿器科学会、AUA、そしてAMS社の関係各位に深謝いたします。また、何よりも私を本プログラムに推薦して下さいました郡健二郎教授（現：名古屋市立大学理事長・学長）、そして暖かく励まして下さった泌尿器科の先生方に深く御礼申し上げます。今回の体験を、今後の臨床・研究・教育の場に生かすことができるように精進したいと思います。